

Sengokuyama Journal  
of Buddhist Studies  
Vol. XI, 2019

仙石山仏教学論集 第11号（令和元年）

『注大般涅槃經』卷二翻刻

青  
木  
佳  
伶



# 『注大般涅槃經』卷二翻刻

青木佳伶

## 要旨

『注大般涅槃經』（以下『注涅槃經』）は、「北本」大乘『涅槃經』の注釈書である。「北本」『涅槃經』は北涼曇無讖（三八五―四三三）によって、四二一年に翻訳されたものである。この注釈書の著者韋諡（生没年未詳）は、唐導江縣の県令であった。『東域伝灯目録』に依ると、『注涅槃經』は全部で三十卷あったことが知られるが、現存が確認されているのは卷二、八、十、十二、十四、そして十九の六卷のみである。卷十を除き、国の重要文化財に指定されている。

韋諡についてはほとんど知られていない。しかしながら、「導江県令」という撰者号は、彼のことを知りうる一つの手がかりになる。私は、韋諡の活躍年代は八世紀前半であり、『注涅槃經』は、唐の開元年間（七一三―七四一）に撰述され、そして天平勝宝五年（七五三）までに日本に将来されたと考ええる。

本稿は、『注涅槃經』卷二一の翻刻である。大正蔵所収『涅槃經』「北本」及び「南本」との校注を掲載している。新たな『涅槃經』注釈書の一資料の提供によって、大乘『涅槃經』のさらなる研究にとって一助となればと考える。

## 解題

### 一、はじめに

『注大般涅槃經』（以下『注涅槃經』）は、唐代の一県令が撰述した大乘『涅槃經』（「北本」）の注釈書である。中国で成立して間もなく日本に将来され、奈良の天平写經の一部として書写され今日まで伝えられている。『注涅槃經』は、中国で流行した形跡は見られない。『東域伝灯目録』<sup>①</sup>によれば、『注涅槃經』は、元は三十巻であり、現在日本に残存しているものは、その中の巻二、八、十、十二、十四、十九の六巻である。

◎1 『注大般涅槃經』巻二 一卷 縦二六・〇糎、全長一六五九・四糎 奈良時代 三重 西来寺 北本  
巻二 壽命品の注

◎2 『注大般涅槃經』巻八 一卷 縦二六・四糎、全長二二八一・〇糎 奈良時代 滋賀 西教寺 北本  
巻八 如来性品の注

◎3 『注大般涅槃經』巻十 一卷 不詳 奈良時代 滋賀 聖衆来迎寺 北本  
巻九 如来性品の注

◎4 『注大般涅槃經』巻十二 一卷 縦二六・四糎、全長一四六六・六糎 奈良時代 三重 西来寺 北本  
巻十二 聖行品の注

◎5 『注大般涅槃經』巻十四 一卷 縦二六・三糎、全長一一五二・二糎 奈良時代 京都 毘沙門堂 北本  
巻十四 聖行品の注

◎6 『注大般涅槃經』 卷十九 一卷 縦二六・四種、全長一一一三・九種 奈良時代 神奈川 西方寺 北本  
卷十九 梵行品の注

◎国指定重要文化財 ○県指定有形文化財

巻十が県指定有形文化財である以外、いずれも国指定重要文化財であり、もともと一具のものであったと考えられている。熟練した写経生による端麗な書写、紫檀・黒檀の経軸などの表装から貴重なものとして扱われたことがわかる。また、巻十二の経端には校了者と思われる三人の署名が残されている。經典と同じように三校されたという形跡も、この注釈書が重視されたことを物語っている。巻二の経端は糊づけされており、確認できなかったが、おそらく巻二も同じように校正されたのであろう。『注涅槃經』についての先行研究は、管見の限り坂本廣博氏の論文一篇のみである。

## 二、撰者韋諗及び本書の成立年代

撰者韋諗は、唐代の一士大夫であり、導江県の県令であった。導江県は、現在の四川省にある都江堰市である。残念ながら、史料から韋諗について知ることはできなかった。ただ韋氏という姓は、漢代からの貴族であり、歴代官職に就き宰相を十七人輩出し、朝廷への影響力の強い名門一族であった。唐代の中宗（六五〇―七一〇）にも重用された韋氏一族であったが、韋后（生年不詳―七一〇）による中宗毒殺事件により、韋后に近い韋氏一族は、朝廷から失脚した。ただ、今のところ韋諗が韋氏一族と関係があったかどうかは未詳である。

では、韋諗は、いつの時代の人だったであろうか。各巻首にある「導江縣令韋諗注」という撰者号の中の「導

江縣」が手がかりとなる。『新唐書』（地理志<sup>④</sup>）や『元和郡県図志』<sup>⑤</sup>から、導江県という名称は、武徳二年から武徳九年（六一九―六二六）及び開元中（七一三―七四一）に使用されたことが判明する。武徳二年は、唐朝が成立した翌年に当たる。『注涅槃經』が天平写経の一部として書写されたことを鑑みれば、おそらくは武徳から貞観中ではなく開元中の撰述と考えるほうが妥当である。また、『東域伝灯目錄』での記録が「大唐導江縣令」とあるから、韋諡が活躍していた年代は、開元の盛唐期と考えると相違ないであろう。「導江縣令」とあることから、韋諡が県令である間に撰述されたことは明白である。したがって、韋諡は開元中に『注涅槃經』を撰述したと推測できる。さらに、これを裏付けるもう一つの記録が、正倉院文書に残されている。『注涅槃經』の記録ではないが、韋諡が撰述した『維摩経』の注釈書である『注維摩経』が天平勝宝五年（七五三）に元暁の注釈書などと共に貸し出された記録<sup>⑥</sup>がある。『注涅槃經』に関する貸し出し記録はないものの、しかし『注涅槃經』もおそらく『注維摩経』と同時期に将来されたと考えて問題はないだろう。したがって、韋諡の活躍年代、『注涅槃經』の撰述年代及び『注維摩経』の貸出年代とが互いに矛盾しないので、筆者の推測通り、『注涅槃經』は、開元中に成立した後遅くても七五三年には、日本に将来されたと考えて概ね問題はないであろう。

### 三、書誌

本稿で紹介する『注涅槃經』卷二は、「北本」『涅槃經』「寿命品」について書かれた注釈の部分であり、仏の常住を説く重要な巻である。この巻二は卷十二と共に、三重県津市乙部にある天台真盛宗別格本山の西来寺の所蔵で、現在京都国立博物館に寄託されている。両巻とも十四メートルを超える長さであり、ほかの巻の十二メートル平均を上回っている。

『注涅槃經』卷二は、大正蔵卷十二に収録されている「北本」『大般涅槃經』(No. 374) 卷二の全巻及び壽命品の一部分に対応する。「南本」(No. 375) では、卷二の全巻に対応し、純陀品及び哀嘆品の二品にわたる。写本の注釈形式は、『涅槃經』本文の間に経文よりも一回り小さい文字で双行の割注が挿入されている。次に『注涅槃經』卷二の書誌について記す。

《卷二》西来寺 重文(京都国立博物館寄託)

名称……『注涅槃經』卷二

外題……『注涅槃經』卷二

内題……『注大般涅槃經』卷二壽命品 導江縣令韋諗注

尾題……『注大般涅槃經』卷二

撰者……導江縣令韋諗注

刊写……写本

装訂……卷子

時代……奈良

裏打ち……無

表紙……有(原) 縦二十五糎九耗、横二十二糎八耗

紐……無

見返し……有

軸……有(原力)

軸首……撥

界線……淡墨界

存欠……完

状態……良好

紙質……楮打紙(厚手)

紙色……染紙黄藥

第二紙……一紙二十二行十七字 縦二十六糎 横五十一

糎二耗 界高十九糎五耗 界幅二糎三耗

天界三糎二耗 地界三糎四耗

法量……四十二糎二耗―五十一糎二耗の間 全三十三

紙

印記……無

奥書……無

備考……各紙のほぼ中央近くに折り跡有り。

## 翻刻・校注

### 【凡例】

一、本テキストは、三重県津市にある天台眞盛宗西来寺所藏（京都国立博物館寄託）韋諗撰『注大般涅槃經』巻第二を翻刻したものである。

二、翻刻に際して異体字等は、概ね正字にて表記した。ただし、いくつか特徴的な文字については、敢えて本文にそのまま残し、注記を施した。本文の中で使用された特徴的な異体字の一例を以下に示す。

見↓現、邪↓耶、蟲↓虻、慙↓慚、段↓假、伍↓低、佐↓怪、碯↓啓、送↓逆、商↓商、斲↓鼎、瘡↓瘡、瘖↓寧、匡↓匡、走↓走、虫↓虫、越↓麦、躡↓洪、曆↓歴、痕↓癩。

三、經の本文と注の部分には適宜、句点、読点を付した。

四、校訂に関しては、引用されている『大般涅槃經』本文について、『大正藏』巻第十二所収、北涼曇無讖訳「北本」『大般涅槃經』(Z. 0. 3. 2) 及び宋慧嚴等による再治本の「南本」『大般涅槃經』(Z. 0. 3. 2) に依った。異同は、脚注にて注記した。その際、「北本」「南本」の字は、それぞれ、「北本」○○、「南本」○○とした。『注涅槃經』と同じ場合は、特に注記していない。また、『大正藏』にある脚注は、「北本注」、「南本注」とした。その際、『大正藏』の表示に準じて、「【宮】」は、宮内庁本、「【三】」は、宋・明・元の三本、「【宋】」は、宋本、「【明】」は、明本、「【元】」は、元本とする。

## 註



(1) 『東域伝灯目録』に「註涅槃經三十卷 大唐導江縣合詮註」とある(大正蔵五十五、一一五四頁中)。なお、注には、「合令壽【甲】」とある。この甲本の大谷大学蔵写本では、「縣令壽詮」となっているようである。おそらく壽の異体字の「寿」を「韋」と間違えたのだろう。

(2) 卷十二の経端には、「一 国守、二 福足。三 ■・」と人名が記されている。三の■は解読不能文字、・はまだ文字があるように見えることを示すものである。

(3) 坂本廣博 [1980] 「重要文化財・毘沙門堂蔵本「注大般涅槃經」卷十四・聖行品について」『叡山学院研究紀要』通号三、三十六頁―四十一頁。

(4) 『新唐書』第四册卷四十二(北京、中華書局、一九七五年、一〇八〇頁)

(5) 李吉甫撰『元和郡縣圖志』下(中国古代地理総志叢刊)(北京、中華書局、一九八三年、七七三頁)

(6) 『正倉院古文書影印集成十七』一〇六頁(宮内廳) 第三〇巻裏 14. 慈訓奉請經卷狀

宮内庁正倉院事務所編 [2007] 『正倉院文書影印集成』十七 麴芥文書、八木書店。

東京大学史料編纂所編 [1968] 『大日本古文书』編年之三 天平二十年―天平勝寶五年、東京大学出版會。

【翻刻】

- 1 注大般涅槃經卷第二壽命品1 導江縣令韋諗注
- 2 爾時、會中有優婆塞、是拘尸那工巧之子、名
- 3 曰純陀此第二成就種性遺執分。純陀、法身。大士也。以本願故、現生工巧之家。 與
- 4 其同類十五人俱、為令世間得善果故、捨
- 5 身威儀從座而起捨、即坐之威儀。請法之容止。 偏袒右肩
- 6 右膝著地、合掌向佛、悲感流淚3。頂
- 7 禮佛足而白佛言、唯願世尊及比丘僧、哀受
- 8 我等最後供養、為度無量諸眾生故請受施為度
- 9 我等最後供養、為度無量諸眾生故請受施為度
- 10 護、無歸無趣佛是衆生法主、今、貧窮飢困
- 11 無法利人曰貧。無德自養為窮。欲從如來求將來
- 12 食食、謂常。 唯願哀愍受我微供、然後涅槃7
- 13 不設供具而請受者、見上諸人。世尊、譬如剎利
- 14 王種、若婆羅門淨行者也。毘舍若若之。首陀農夫
- 15 之類、以貧窮故況無出世之善也。、遠至他國捨生
- 16 本居、趣涅槃輸修出、得好調牛、良
- 17 田平正志不迂、無諸沙鹵8、惡草、株机9。

1 壽命品：「北本」壽命品第一之二。「南本」純陀品第二。  
 2 拘尸那：「北本」拘尸那城。「北本注」〔城〕欠〔宋〕。  
 3 「南本」拘尸那城。「南本注」〔那〕欠〔三〕。  
 4 唯：「南本注」〔三〕惟\*。  
 5 唯：「南本注」〔三〕惟\*。  
 6 哀愍受我：「南本」哀受我等。  
 7 然後涅槃：「北本」然後乃入於般涅槃。  
 8 鹵：「北本注」〔三〕鹵\*。  
 9 株机：「南本」荒穢。



- 37 故行施之人。爾時、純陀卽白佛言、如佛所說、二具足檀度。
- 38 施果報、無差別者、是義不然。世尊以二施田田別。由田不同、故生疑也。何以故。先受施者、煩惱未盡、未得成就一切種智。菩提樹下、未成正覺、非勝田也。亦未能令衆生、具足檀波羅蜜。既非勝田、熟能令具。後受施者、煩惱已盡、已得成就一切種智、能令衆生普得具足檀波羅蜜。田既不同、果必有異。先受施者、直是衆生。未得聖果。後受施者、是天中天。諸天望佛、猶人望天。故曰天中天也。
- 45 先受施者、是雜食身。資段。煩惱之身。煩惱所依故。
- 46 是後邊身。生死有邊故。是無常身。有生有滅故。後受施者、無煩惱身。非煩惱所依故。金剛之身。不可壞故。法身。法性。
- 48 常身。無生無滅故。無邊之身。離有邊邊故。云何而言、二施果報等無差別。初施非佛、後施是佛。佛與非佛、二果不同。云何說言、二因之報、等無異也。
- 50 先受施者、未能具足檀波羅蜜乃至般若波羅蜜、唯得肉眼。眼非是肉、以依肉成、故云肉眼。未得佛眼。此眼實無分別慧也。乃至慧眼。證無相慧也。後受施者、已得具足檀波羅蜜乃至般若波羅蜜、具足佛眼。此眼實無分別慧也。
- 54 慧眼。云何而言、二施果報、等無差別。先受施時、未能備善。後受施時、已得具足。而言二施無差、故與此難。世尊、先受施者、受已食

29 直：「南本」猶。  
 30 段：假。  
 31 唯：「南本注」三。惟\*。  
 佛：「南本注」三。肉。

- 56 噉<sup>33</sup>、入腹消化、得命得色、得力得安、得無礙辯<sup>34</sup>。
- 57 後受施者、不食不消、無五事果。云何而言、二
- 58 施果報、等無差別先受而食、於身有用。後受不食、於身無用。先後有殊、理在無惑。今云不別、故。
- 59 疑難生焉。
- 60 佛言、善男子、如來已於無量無邊阿僧祇劫、
- 61 無有食身資食之身、非如來也。、煩惱之身、非後邊身、常
- 62 身、法身、金剛之身。善男子、未見佛性者、名煩
- 63 惱身、雜食之身、是後邊身。菩薩爾時、受飲食
- 64 已、入金剛三昧。此食消已、即見佛性、得阿耨
- 65 多羅三藐三菩提。是故我言二施果報等無
- 66 差別夫見性者、乃是照理之極、豈可以食身而見之乎。苟見食身、則知非實。今菩薩爾、故二施無差。。
- 67 菩薩爾時、破壞四魔、今入涅槃、亦破四魔、是
- 68 故我言、二施果報等無差別成佛涅槃、俱破四也。始終平等、故無。
- 69 也。菩薩爾時、雖不廣說十二部經、先已通達。
- 70 今入涅槃、廣為衆生分別演說。是故我言、二
- 71 施果報等無差別說與不說、但為得緣。故云不異。。善男
- 72 子、如來之身、已於無量阿僧祇劫、不受飲食
- 73 純陀以五事有殊、而生二見。世尊以五事果同、說為一相。何以故。如來成佛已無量劫故、然則前施後施、俱是化佛。施佛不殊。故無二也。
- 74 為諸聲聞說言、先受難陀、難陀波羅

33 噉：「南本」之。

34 礙：「南本注」三。闕\*。  
非：「北本」、「南本」無。

- 75 二牧牛女、所奉乳糜此二女人、是姊妹也。初成佛時、受女人施。臨涅槃時、受丈夫施者、為表內外二德也。內德如女、取其順柔、外德如男、表其剛正。。然後乃得阿耨36
- 76 多羅三藐三菩提。我實不食。我今普為37 38此會
- 77 大眾、是故受汝最後所奉、實亦不食樹下成佛。不食後施是實。權實雖。殊而不食一也。
- 78 爾時、大眾聞佛所言、普為大會、將受純陀、最後供養、歡喜踊躍、同聲讚言、善哉善哉、希有
- 79 純陀、汝今立字、名不虛稱。言純陀者、名解妙
- 80 義。汝今建立、如是大義、是故依實、從義立名、故名純陀今所解義、契昔嘉名。故共讚之。。汝今見世、得大41
- 81 名利、德願滿足昔於迦葉佛時、發斯誓願。今得最後供養。故云滿足。。甚奇、純陀生在人中、復得難得無上之利具檀之利、為無
- 82 也。善哉、純陀。如優曇花、世間希有輪王出世。此花乃現。。
- 83 佛出於世、亦復甚難、值佛生信、聞法復難。佛
- 84 臨涅槃、最後供養、能辨是事復難。於是南無
- 85 純陀、南無純陀南無此言歸命。。汝今已具檀波羅蜜、
- 86 猶如秋月十五日夜、清淨圓滿無諸雲翳、一
- 87 切衆生、無不瞻仰。汝亦如是、而為我等之所
- 88 瞻仰。佛已受汝最後供養、令汝具足檀波羅

36 糜：「北本注」【宋】糜。  
 37 普為：「北本」為於、「北本注」【二】為於、普為。  
 38 此：「南本」作。  
 39 所言：「北本」、「南本」世尊。  
 40 將受：「北本」受於、「南本」哀受。  
 41 見：現。「北本」、「南本」現。  
 42 辨：「北本注」【宮】辦。「南本」辦。

- 94 蜜。南無純陀、是故說汝如月盛滿、一切衆生無不瞻仰。南無純陀、雖受人身、心如佛心<sup>以大悲爲心也</sup>。汝今純陀、眞是佛子、如羅睺羅、等無有異。爾時、大衆卽說偈言、
- 98 汝雖生人道、已超第六天<sup>他化自在天是欲界頂。魔王波旬都處也。</sup>
- 99 心超其境、我及一切衆、今故稽首、請人中最勝尊、今當入涅槃、汝應愍我等。唯願速請佛、久住於世間、利益無量衆、演說智所讚、無上甘露法。汝若不請佛、我命將不全、是故應見爲稽請調御師。爾時、純陀歡喜踊躍、譬如有人、父母卒喪、忽然還生<sup>45 承警告滅 事同卒喪。 46 開答五難 譬如劫蘇。</sup>純陀歡喜、亦復如是。因起禮佛、而說偈言、
- 106 快哉獲已利、善得於人身、蠲除貪恚等<sup>47 支反。</sup>、永離三惡道。快哉獲已利、遇得金寶聚、值遇調御師、不懼墮畜生。佛如優曇花、值遇生信難、遇已種善根、永滅餓鬼苦、亦復能損滅、阿修羅種類<sup>50 自欣見佛。 51 得離四趣。</sup>。芥子投針鋒、佛出難於彼、我以具足檀、廣度生死海<sup>52</sup>。佛不染世法、如蓮出水中<sup>53</sup>。善斷有頂種<sup>54 謂三有之頂也。</sup>、永度生

43 愍：「南本注」〔三〕憫\*。  
 44 唯：「南本注」〔三〕惟\*。  
 45 生：「北本」·「南本」活。  
 46 因：「北本」·「南本」復。  
 47 除：「南本」餘。  
 48 遇：「南本注」〔明〕愚。  
 49 滅：「北本」離。「北本注」〔三〕離<sup>11</sup>滅。  
 50 彼：「北本」·「南本」是。  
 51 以：「北本注」〔三〕已\*。「南本注」〔元〕〔明〕已。  
 52 廣度生死海：「北本」·「南本」度人天生死。  
 53 出水中：「北本」·「南本」花處水。  
 54 有：「南本」水。

- 113 死流、生世爲人難、值佛世亦難。猶如大海中、  
114 盲龜遇浮孔、我今所奉食、願得無上報。一切  
115 煩惱結、摧破不堅牢。我今於此處、不求天人  
116 身、設使得之者、心亦不甘樂。如來受供養、歡  
117 喜無有量、猶如伊蘭花、出於梅檀香。我身如  
118 伊蘭、如來受我供、如出梅檀香、是故我歡喜。  
119 我今得見報、最勝上妙處、釋梵諸天等、悉來  
120 供養我。一切諸世間、悉生諸苦惱、以皆知世  
121 尊、欲入於涅槃、高聲唱是言、世間無調御  
122 不應捨衆生、應視如一子。如來在僧中、演說  
123 無上法、如須彌寶山、安處于大海。佛智能善  
124 斷、我等無明闇、猶如虛空中、起雲得清涼。如  
125 來能善除、一切諸煩惱、猶如日出時、除雲光  
126 普照。是諸衆生等、戀慕增悲慟、皆悉爲生死、  
127 苦水之所漂。以是故世尊、應長衆生信、爲斷  
128 生死苦、久住於世間。  
129 佛告純陀、如是如是。如汝所說、佛出世難如  
130 優曇花、值佛生信亦復甚難。佛臨涅槃、最後  
131 施食能具足檀、又復倍難。汝今純陀、莫大愁

55 遇：「北本注」元「明」【宮】值。

56 不堅牢：「南本」無堅固。

57 天人：「北本注」元「明」【宮】人天。

58 供養：「北本」南本「我供。

59 見：現。「北本」、「南本」現。

60 諸：「北本注」元「明」【宮】大。「南本」大。

61 皆知：「北本」南本「知佛。

62 欲入於涅槃：「南本」今欲入涅槃。

63 起雲：「南本」雲起。

64 猶如「清涼：「南本注」宋「猶如虛空中、起雲得清涼」

（124行）と（猶如日出時、除雲光普照）（125、126行）とを

入れ替える。

65 除：「北本注」【宮】斷。

66 戀慕增悲慟：「北本」啼泣面目腫。

67 皆悉：「北本」南本「悉皆。

又：「北本」南本「又」欠。

68 復倍：「北本注」【三】倍復。「南本」倍復。

70 難：「北本」南本「甚難。



132 苦、應生踊躍、深自慶幸、得值最後供養如來、  
 成就具足檀波羅蜜。不應請佛久住於世所止。  
 133 請。汝今當觀、諸佛境界、悉皆無常、諸行性相  
 也。亦復如是常。五蔭遷流、名為諸行、亦同佛化、故云。  
 134 如。即為純陀而說偈言、  
 135 一切諸世間、生者皆歸死。壽命雖無量、要當  
 有盡期。<sup>73</sup>壯年不暫停、<sup>74</sup>美色病能侵。<sup>75</sup>命為死所  
 吞、世法無常住。<sup>76</sup>諸王得自在、威力難等雙。<sup>77</sup>一  
 136 切皆遷動、<sup>78</sup>壽命亦如是。眾苦輪無際、流轉不  
 137 休息。三界皆無常、諸有悉非樂。<sup>79</sup>此道本性相、  
 138 一切皆空無。<sup>80</sup>求其性相、不可得故。可壞法流轉、常有憂  
 139 患等。恐怖諸過惡、<sup>81</sup>老病死哀惱、是諸無有邊  
 140 多思。<sup>82</sup>易壞怨所侵、煩惱相纏裹、猶如蠶處繭。  
 141 何有智慧者、而當樂是處。此身苦所集、一切  
 142 皆不淨。<sup>83</sup>扼縛癱瘡等、<sup>84</sup>扼縛況煩惱、<sup>85</sup>纏瘡驗苦報、<sup>86</sup>根本無義  
 143 利。上至諸天身、亦復皆如是。諸欲悉無常、<sup>87</sup>故  
 144 我不貪著。離欲善思惟、而證於真實。<sup>88</sup>究竟斷  
 145 有者、今日當涅槃。<sup>89</sup>有謂有身之有也。如來久已無。<sup>90</sup>  
 146 我度有彼岸。<sup>91</sup>至涅槃之岸。已得過諸苦、是故  
 147 我度有彼岸。<sup>92</sup>至涅槃之岸。已得過諸苦、是故

71 生踊躍：「南本」當歡喜。  
 72 深：「北本」喜。  
 73 當有盡期：「北本」必當有盡。「南本」必有終盡。  
 74 「盡期」と「壯年」の間、「北本」「南本」「夫盛必有衰、  
 合會有別離」有り。  
 75 暫：「北本」「南本」久。  
 76 美：「北本」「南本」盛。  
 77 能：「北本」「南本」所。  
 78 世法無常住：「北本」無有法常者。「南本」無有法常住。  
 79 威：「北本」「南本」勢。  
 80 難：「北本」「南本」無。  
 81 動：「南本」滅。  
 82 不：「北本」「南本」無。  
 83 悉非：「北本」無有。  
 84 此：「北本」「南本」有。  
 85 轉：「北本注」「宋」動。  
 86 惡：「北本注」「元」明【宮】患。  
 87 相：「北本」「南本」所。  
 88 扼：「北本注」「三」輓。  
 89 亦復皆：「北本」「南本」皆亦復。  
 90 悉：「北本」「南本」皆。  
 91 於真實：「南本」真實法。  
 92 已得過諸：「南本」出過一切。

- 151 於今日、純受上妙樂<sup>95</sup>。有即有苦、無有即無苦。無苦之極、是名妙樂。以
- 152 是因緣故、證無戲論邊、永斷諸纏縛、今日入
- 153 涅槃。我無老病死、壽命不可盡、我今入涅槃
- 154 猶如大火滅。純陀汝不應、思量如來義、當觀
- 155 如來常、猶如須彌山。我今入涅槃、受於第一
- 156 樂、諸佛法如是<sup>96</sup>。既有化生、理宜化滅。不應復啼哭。
- 157 爾時、純陀白佛言、世尊、如是如是、誠如聖教<sup>100</sup>。
- 158 我今所有智慧微淺、猶如蚊蚋<sup>101</sup>、何能思議如
- 159 來涅槃深奧之義。世尊、我今已與諸大龍象
- 160 菩薩摩訶薩、斷諸結漏文殊師利法王子等。
- 161 世尊、譬如幼年初得出家<sup>102</sup>。習道未久名曰幼年、始悟常理是初出義。
- 162 雖未具戒即墮僧數。我亦如是。以佛菩薩神
- 163 通力故、得在如是大菩薩數。是故我今欲請<sup>103</sup>
- 164 如來久住於世不入涅槃。譬如飢人終無變吐、
- 165 唯願世尊、亦復如是、常住於世、不入涅槃<sup>104</sup>。飢渴
- 166 之人、必不變吐。喻如。來常住、則本願滿足。
- 167 爾時、文殊師利法王子告純陀言、純陀汝今
- 168 不應發如是言。欲請如來常住於世、不般涅
- 169 槃。如彼飢人無所變吐<sup>105</sup>。汝今當觀諸行性相<sup>106</sup>

93 日：「北本」·「南本」者。「北本注」【元】「明」【宮】日。  
 94 純：「南本」惟。「南本注」【三】惟。  
 95 「南本」【以是（15行）】（啼哭）【15行】までを欠く。  
 96 常：「北本」住。「北本注」【元】「明」【宮】性。「南本」  
 本文欠  
 97 入：「北本注」【三】【宮】正。「南本」本文欠  
 98 於：「北本注」【三】持。「南本」本文欠  
 99 啼：「北本注」【宋】涕。「南本」本文欠  
 100 教：「南本注」【三】言。  
 101 蚋：「北本」蛇。  
 102 具戒：「北本」受具。  
 103 請：「北本」·「南本」令。  
 104 唯：「南本注」【三】惟\*。  
 105 唯願：「北本」願使。  
 106 住：「南本注」【三】在\*。  
 107 言：「南本注」【三】曰。  
 108 請：「北本」·「南本」使。「南本注」【三】令。  
 109 人：「北本注」【明】久。  
 110 所：「南本」有。

- 170 小乘法中、以佛是有爲諸行所攝。若、如是觀行具觀性相無常、而佛色身終歸壞滅。
- 171 空三昧。由觀無常、知法無性、故能具足空三昧也。欲求正法應如是。
- 172 學。汝當觀行無常無性無相。不應勸佛久住於世。純陀問言文殊師利、
- 173 夫如來者、天上人中最尊最勝、如是如來豈
- 174 是行耶。如來者、乘如實來。所乘既實、果必是真、故非行也。若是行者、爲
- 175 生滅法。天人之行是行。世尊出過於天、豈同諸天。是行也哉。若是行者、便爲生滅、非正行也。譬
- 176 如水泡速起速滅、往來流轉、猶如車輪。一切
- 177 諸行亦復如是。我聞諸天壽命極長、云何世
- 178 尊是天中天、壽命更促不滿百年。非想之天、壽八萬劫。
- 179 況佛之命。如聚落主、勢得自在、以自在力、能
- 180 制他人。是人福盡、其後貧賤、人所輕蔑、爲他
- 181 策使。所以者何、失勢力故。世尊亦爾、同於諸
- 182 行。同諸行者、則不得稱爲天中天。何以故。諸
- 183 行卽是生死法故。是故文殊、勿觀如來、同於
- 184 諸行。
- 185 復次、文殊爲知而說、不知而說。不知而說是爲妄語。若必知常、則不、而言如來同於諸行無常也。設復如
- 186 來同諸行者、則不得言於三界中、爲天中天
- 187 自在法王。譬如人王。況衆生也。有大力士。喻如來也。言衆

111 文殊：「北本注」三「言」文殊師利。  
112 復：「北本」、「南本」使。

- 189 生能感佛。其力當千、更無有能降伏之者能  
 188 出世故。魔也。故稱此人一人當千。如是力士王所愛念、  
 187 偏賜爵祿封賞自然以四事。所以得稱當千  
 186 人者、是人未必力敵於千直、以種種技藝所  
 185 能勝於千故、故稱當千藝謂無爲。功德也。如來亦爾、  
 184 降煩惱魔・陰魔・天魔・死魔、是故如來名三界  
 183 尊、如彼力士一人當千。以是因緣、成就具足  
 182 種種無量、真實功德、故稱如來、應正遍知。文  
 181 殊師利、汝今不應憶想分別、以如來法同於  
 180 諸行。譬如巨富長者生子衆生感佛來至、相  
 179 師占之有短壽相文殊說佛是無常也。。父母聞已、知其  
 178 不任紹繼家嗣家謂法性也。若佛非有爲、則佛從、  
 177 王家也。若是有爲、則與法性法性家生、是法與子、堪任紹繼法、  
 176 相背、非法眞子、故曰不任。不復愛重、親如芻  
 175 草。<sup>120</sup>夫短壽者、不爲沙門婆羅門等男女大小<sup>121</sup>  
 174 之所敬念。若使如來同諸行者、亦復不爲一  
 173 切世間人天衆生之所奉敬。如來所說不變  
 172 不異眞實之法、亦無受者唯證乃。是故文殊<sup>122</sup>  
 171 不應說言、如來同於一切諸行。復次文殊<sup>123</sup>、譬  
 170 如貧女、無有居家救護之者女況行人也。闕之妙、  
 169 理、喻無居家、遠離

113 人：「南本」士。  
 114 直：「北本」・「南本」但。  
 115 技：「北本」・「南本」伎。「南本注」【元】【明】技\*。  
 116 能勝於：「北本」・「南本」能能勝。  
 117 成：「南本」或。  
 118 應：「南本注」【三】應供。  
 119 任：「北本注」【宮】住。  
 120 親如芻草：「北本」視如芻草。「南本」視之如草。  
 121 等：「南本注」【三】等。欠。  
 122 文殊：「北本注」【元】【明】【宮】文殊師利\*。  
 123 文殊：「北本注」【元】【明】【宮】文殊師利\*。

208 善人、非。加復病苦、飢渴所逼煩惱是病苦、無法爲飢渴。、遊  
 209 行乞巧125 請道125 行乞之象。止他客舍夫教有權拙之義故、以大乘方  
 210 諸迎26 寄生一子起解名生、紹佛爲子。。是客舍主謂化、驅逐  
 211 令去令求實故。其產未久27 深也。携抱是兒、欲  
 212 至他國持解喻携、抱廻向名。欲。佛果爲他國。於其中路、遇惡風  
 213 雨、寒苦並至至正修行時、名爲中路。觸對塵埃。。多  
 214 爲蚊虻・蜂蠅・毒蟲之所啖28 食啖食況惡。友害善也。。經由130  
 215 恒河、抱兒厲渡、其水漂疾131 漂音、偏132 終不放捨  
 216 中遇二乘、況經恒河。持解求出、喻抱兒渡。於是母子  
 217 遂共俱沒爲小所勸、名水漂疾。守解莫從、如不放捨。以身故法。如是女人慈念功德、命終  
 218 之後、生於梵天慈念況護法、梵天喻解脫。。文殊師利、若有  
 219 善男子、欲護正法、勿說如來同於諸行、不同  
 220 諸行應化二身、有常無常、蓋諸佛方便利生之教也。若說同諸行、是違常教。若說不同諸行、是無常。  
 221 教護正法、人不當133。唯當自責、我今愚癡、未有慧  
 222 眼134。如來正法不可思議、是故不應宣說。如來  
 223 定是有爲、定是無爲方便是有爲、眞諦是無爲。二法相依、不可言定。。若  
 224 正見者、應說如來定是無爲談眞、不。言俗也。。何以故。  
 225 能爲衆生善法故、生憐愍故135。如彼貧女在  
 226 於恒河、爲愛念子而捨身命。善男子、護法菩

124 逼：「南本注」宋（福禾ナイ）。  
 125 巧：「南本」句。  
 126 逆：『注涅槃經』では逆、逆の異体字。  
 127 其產未久：「南本」欠。  
 128 蠅：「北本・「南本」蠶。  
 129 啖：「北本注」宋「嚼」。  
 130 經：「北本注」宮「逕」。  
 131 厲渡：「北本」而度。「南本」而渡。「南本注」二「渡」度。  
 132 終：「北本・「南本」而。  
 133 唯：「南本注」三「惟\*」。  
 134 未有慧眼：「北本注」三「無有慧目、」宮「未有慧目」。  
 135 憐愍：「南本注」三「憐憫心」。

- 227 薩亦應如是、寧捨身命、不說如來同於有爲  
說同有爲、是誘佛也。
- 228 爲、當言如來同於無爲。以說如來同無  
爲、故得阿耨多羅三藐三菩提。如彼女人得
- 229 生梵天人、以不誘得解。何以故、以護法故。云何  
生梵天人、以不誘得解。
- 230 護法、謂說如來同於無爲。善男子、如是之人  
雖不求解脫、解脫自至。如彼貧女不求梵天、
- 231 雖不求解脫、解脫自至。梵天自至。<sup>137</sup>
- 232 梵天自至。<sup>137</sup>
- 233 文殊師利、如人遠行中路疲極、起修長久、是曰  
遠行。以中廢故、
- 234 名爲疲、寄止他舍、退住小乘、名爲寄止。臥寐之中  
極。未發也。
- 235 其室忽然大火卒起、火況無常也。聞說無。  
未發也。
- 236 即時驚寤、尋自思惟、覺知無常、爲驚寤。我  
漸識權教、名思惟。
- 237 於今者、定死無惑、138 憂慮佛身、爲懼教、具慚愧  
所隱、故言必死。
- 238 故、以衣纏身、佛現無常、有類身纏、恥佛無常、故  
纏。
- 239 即便命終、護心至死、生忉利天、須彌山上有、  
名爲終也。
- 240 切利天王之輔臣、今言生滿八十反作大  
切利者、喻得三十二相也。
- 241 從是已後、140滿八十反作大  
141
- 242 梵王、種好也。滿百千世生於人中、爲轉輪王  
百千譬壽。無量輪。
- 243 是人、王況不共功德。不復生三惡趣、不生喻  
證常。三
- 244 惡譬、展轉常生安樂之處、無爲常果。以是  
流轉。是安處也。
- 緣故、文殊師利、若善男子有慚愧者、不應觀

136 謂說：「北本・「南本」所謂說言。」  
 137 至：「南本」應。  
 138 寤：「北本注」【宮】悟。  
 139 無惑：「北本・「南本」不疑。」「北本注」【三】不無  
 已：「北本注」【宋】以。  
 140 反：「北本・「南本」返。」「北本注」【三】【宮】返。反。

- 246 佛同於諸行遇火之人、愧身醜惡、以衣覆體、命終、故得。護法之人、不說如來、同於諸行、
- 247 解脫。文殊師利、外道邪見可說、如來同於有
- 248 爲。持戒比丘、不應如是、於如來所、生有爲想
- 249 不應師處、起生滅心。比丘之人、是佛弟子、若言如來是有爲者、卽是
- 250 妄語。當知是人死入地獄、如人自處於己舍
- 251 宅因既不善、果是地獄。此道必然、如入己宅。文殊師利、如來真實是
- 252 無爲法。不應復言、是有爲也。汝從今日、於生
- 253 死中、應捨無智、求於正智當捨生滅之心、而觀實相常法。當知
- 254 如來卽是無爲。若能如是觀如來者、當得具
- 255 足143三十二相、速疾成就阿耨多羅三藐三菩
- 256 提文殊說佛無常、以權道除常也。純陀說佛常、以實智除無常也。二俱利益、兩義無傷。
- 257 爾時、文殊師利法王子讚純陀言、善哉善哉
- 258 歎其深。善男子、汝今已作長壽因緣、能知如
- 259 來是常住法、不變異法、無爲之法。汝今如是
- 260 善覆如來有爲之相、如被火人爲慚愧故、以
- 261 衣覆身。由是善心、生切利天、復爲梵王轉輪
- 262 聖王、不至惡趣常受安樂。汝亦如是善覆如
- 263 殊師利言、如來於汝及以於我150一切衆生、皆
- 264 悉悅可視同一子故。純陀答言、汝不應言如來悅

142 智：「北本注」三「宮」知。「南本」知。  
 143 當得具足：「北本」・「南本」具足當得。  
 144 連疾成就：「南本」疾成。  
 145 相：「北本」「宮」想。  
 146 被：「北本」彼「北本注」三「彼」被。  
 147 由：「北本」・「南本」以。  
 148 至：「南本注」明知。  
 149 『註涅槃經』は「善覆如」以降「來有為相故」一切衆生。  
 文（「北本」三七四頁中段二三行から下段十四行まで、  
 「南本」六一四頁上段十六行から中段八行）までの文が  
 脱落。  
 150 於我：「南本」我等。

- 265 可除悅也。夫悅可者、則是倒想有悅可想。是名顛倒。若有
- 266 倒想151即是生死。有生死者、即有爲法。是故文
- 267 殊、勿謂如來是有爲也此舉果似。除因執。若執權爲實。是則與仁俱。若言如來
- 268 是有爲者、我與仁者俱行顛倒52
- 269 行倒。文殊師利、如來無有愛念之想。教離分。夫
- 270 愛念者、如彼母牛、愛念其子。雖復飢渴、行求
- 271 水草、若足不足俟爾還歸。諸佛大慈無有
- 272 是念、等視一切如羅睺羅非如母牛。獨念其子。如是念者、
- 273 即是諸佛智慧境界無愛念、觀真也。等視一切緣俗也。眞俗雙觀、是佛
- 274 慧。文殊師利、譬如國王、調御駕馭、欲馳驅156
- 275 乘、而及之者、無有是處。我與仁者、亦復如是。
- 276 欲盡如來、微密深奧、亦無是處。文殊師利、如
- 277 金翅鳥鳥況法。飛昇虛空。無量田喻淨土也。下
- 278 觀大海海譬生。死也。悉見水性魚鼈龜音魚。衰反。
- 279 鼈徒多反。龜龍之屬。喻見六道。衆生也。及見已影反視
- 280 現於三界。如於明鏡、見諸色像眞俗俱。譬也。凡夫少智、
- 281 不能籌量、如有所見。我與仁者亦復如是。不
- 282 能籌量如來智慧。文殊師利語純陀言、如是
- 283 如是如汝所說。我於此事非爲不達、直欲試

151 即：「北本」·「南本」則。  
 152 顯：「南本注」【宋】「元」顯眞價\*。  
 153 母：「北本注」【宋】乳。「南本」乳。  
 154 俟爾：「北本」·「南本」忽然。  
 155 大慈：「北本」·「南本」世尊。  
 156 馳：「北本」令。  
 157 乘：「北本」車。  
 158 而：「南本」令。  
 159 飛昇：「北本注」【宋】昇於。



284 汝諸菩薩事。我今說佛同諸行者，非是不將試新學之人，故作是說。爾時、  
 285 世尊從其面門出種種光佛目耀、其光明曜  
 286 照文殊身。文殊師利、遇斯光已、卽知是事、尋  
 287 告純陀、如來今者、現是瑞相、不久必當入於  
 288 涅槃。汝先所設最後供養、宜時奉獻佛及大  
 289 衆。純陀當知、如來放是種種光明、非無因緣。  
 290 純陀聞已、情咽默然。160佛告純陀、汝所奉施佛  
 291 及大衆、今正是時。如來不久當般涅槃。162第二  
 292 第三亦復如是。163將因食起化。164爾時、純陀聞佛  
 293 語已、舉聲啼哭、嗚咽而言、苦哉苦哉、世間空  
 294 虛。復白大衆、我等今者一切、當共五體投地、  
 295 同聲勸佛、莫般涅槃。165恐一人之誠、不能感佛、  
 296 世尊復告純陀、汝莫啼哭自撓其心。166亂心迷  
 297 也。當觀是身猶如芭蕉、167熱時之燄、168體無  
 298 水沫、169不可、170幻化、171空也。乾闥婆城、172望之似有、173坏  
 299 器、174言不、175電光、176出已、亦如畫水、臨死之囚、177熟菓、178  
 300 段肉、179勢不、180如織經盡如碓上下。當觀諸行、猶  
 301 雜毒食有爲之法、多諸過患。於是純陀復白  
 302 佛言、如來不欲久住於世、我當云何而不啼

160 情：「南本」悲。  
 161 咽：「北本」、「南本」塞。  
 162 不久：「北本」、「南本」正爾。  
 163 啼：「南本注」三號。  
 164 嗚：「北本」、「南本」悲。  
 165 咽：「北本注」三。噓。「南本注」元。明。噓。  
 166 汝莫啼哭自撓其心：「北本」莫大啼哭令心顛悴。「北本  
 注」元。明。宮。顛。悴。「南本」莫大啼哭自亂其心。  
 167 飲：「北本」、「南本」炎。  
 168 沫：「北本」、「南本」泡。「北本注」三。泡。沫。  
 169 坏：「北本注」宋。杯。  
 170 菓：「北本」、「南本」果。  
 171 段：假。「北本」、「南本」段。

- 303 哭。<sup>172</sup> 苦哉苦哉，世間空虛，唯願世尊，憐愍我等  
 304 及諸衆生，久住於世，勿般涅槃。佛告純陀，汝  
 305 今不應發如是言，憐愍我故，久住於世。我以  
 306 憐愍汝及一切，是故今欲入於涅槃。<sup>178 179 180 181</sup> 久住則不  
 307 之。何以故，諸佛法爾。<sup>182</sup> 衆生不知身之過患，有爲  
 308 義，故云、有爲亦然。是故諸佛，而說偈言、  
 309 有爲之法，其性無常，生已不住，寂滅爲樂  
 310 上言生死之患，教之令離。  
 今說涅槃之樂，勸之令求。  
 311 純陀，汝今當觀一切，行雜諸法，無我無常，不  
 312 住此身，多有無量過患，猶如水泡。是故汝今  
 313 不應啼泣。<sup>183</sup> 爾時，純陀復白佛言，如是如  
 314 是，誠如尊教。雖知如來方便示現，入於涅槃、  
 315 而我不能不懷苦惱。<sup>184</sup> 今自思惟，復生慶悅。<sup>185</sup>  
 316 滅故致憂。許。佛讚純陀，善哉善哉，能知如來  
 受供故欣悅。  
 317 示同衆生，方便涅槃。純陀，汝今當聽，如娑羅  
 318 娑鳥隨陽之鳥也。若  
 娑鳥此方，鴻鷹之屬。  
 319 耨達池。<sup>186</sup> 諸佛亦爾，皆是處。<sup>187</sup> 況引根  
 源也。  
 320 同入涅槃。純陀，汝今不應思惟，諸佛長壽短壽  
 321 化佛之身，隨衆生機，有緣則現，緣盡則滅。此乃  
 由機，而不由壽。今現涅槃，不應思量，壽與不壽。一切

172 哭：「北本」·「南本」泣。「南本注」〔三〕泣。哭。  
 173 唯：「南本注」〔三〕惟\*。  
 174 憐：「南本注」〔三〕哀。  
 175 愍：「南本注」〔三〕憫\*。  
 176 憐：「南本」哀。  
 177 愍：「南本注」〔三〕憫\*。  
 178 憐：「南本」哀。  
 179 愍：「南本注」〔三〕憫\*。  
 180 今：「南本」今日。  
 181 於：「南本」〔於〕欠。  
 182 偈言：「北本注」〔宋〕是偈。「南本」是偈。  
 183 苦：「北本注」〔三〕憂。「南本」憂。  
 184 今：「北本」·「南本」覆。  
 185 純陀：「南本注」〔三〕〔純陀〕欠。

- 322 諸法、皆如幻相示滅示生同幻同化。如來在中、以方便力、無所染著不染於生、不著於滅。何以故、諸佛法爾。純陀、我今受汝所獻供養、爲欲令汝度於生死諸有流故。<sup>187</sup>若諸人天於此最後供養我者、悉皆當得不動果報、常受安樂以最後施、故能得之。何以故、我是衆生良福田故。<sup>188</sup>汝若復欲爲諸衆生作福田者、速辦所施、不宜久停。<sup>189</sup>施者、具檀波羅蜜、能爲衆生之大福田也。<sup>190</sup>爾時、純陀爲諸衆生得度脫故低頭飲淚。<sup>191</sup>將辦施供故先飲淚、而後辭其不敏。<sup>189</sup>、而白佛言。善哉世尊、我若堪任爲福田者、則能了知如來涅槃及非涅槃。我等今者及諸聲聞·緣覺、智慧猶如蚊蟻、實不能量如來涅槃及非涅槃。<sup>190</sup>入與不人之機、惟佛所了。我識微淺故、不能量。
- 334 爾時、純陀及其眷屬、秋憂啼泣、圍繞如來、燒香散花、盡心敬奉。尋與文殊、從座而去、供辦食具。<sup>191</sup>純陀不閑獻、則是。其去未久、<sup>193</sup>是時此地、六種震動、乃至梵世、亦復如是。<sup>192</sup>頂皆名爲梵。今之一動、偏種。地動有二、或有地動、或大地動。小動者、名爲地動。大動者、名大地動。有小聲者、名

186 於：「南本」脫。  
 187 流：「南本」漏。「南本注」三二漏。流。  
 188 飲：「北本注」元「明」宮「才+丈」。  
 189 者：「北本」·「南本」時。  
 190 蟻：「南本」蚋。  
 191 秋：「北本」·「南本」愁。  
 192 繞：「北本」·「南本」遶。  
 193 食具其去未久：「南本」食具／大般涅槃經哀歎品第三／純陀去已未久之頃。「南本注」明「大般涅槃經」欠。

- 341 曰地動。有大聲者、名大地動。獨地動者、名曰地動。山河樹木及大海水一切動者、名大地動。<sup>194</sup>
- 342 動。一向動者、名曰地動。周迴旋轉、名大地動。
- 343 動、名地動。動時能令眾生心動、名大地動。菩薩初從兜率天下闍浮提時、名大地動。從初生出家、成阿耨多羅三藐三菩提、轉於法輪及般涅槃、名大地動。今日如來將入涅槃、是故此地如是大動。<sup>195</sup>此語當是佛說。集經之人略耳。時諸天龍、乾闥婆・阿修羅・迦樓・緊那羅・摩睺羅伽・人及非人、聞是語已、身毛皆豎、同聲哀泣、而說傷言、
- 351 稽首禮調御、我等今勸請。若離於人仙、無能救護者。<sup>198</sup>今見佛涅槃、我等沒苦海。愁憂懷悲惱、猶如犢失母。<sup>200</sup>捫違無所託、有若困病人。無醫隨自心、食所不應食。眾生煩惱病、常為諸見害。遠離法醫師、服食邪毒藥。由是大醫王、不應見捨離。<sup>204</sup>如國無君主、人民皆飢餓。<sup>207</sup>
- 358 我等亦如是、失蔭及法味。今聞佛涅槃、我等心迷亂。如彼大地動、迷失諸方所。<sup>209</sup>大仙入涅槃

194 山河樹木及大海水：「南本」山林河海。  
 195 迦樓：「北本」・「南本」迦樓羅。  
 196 禮調御：「南本」調御師。  
 197 若：「北本」違。「南本」遠。「南本注」【三】違。無能救護者：「北本」・「南本」永無有救護。「北本注」【三】「宮」永無有救護。  
 199 愁憂懷悲惱：「南本」悲戀懷憂惱。  
 200 猶如犢失母：「南本」如犢失其母。  
 201 捫違無所託：「北本」・「南本」貧窮無救護。有若：「北本」・「南本」猶如。  
 203 師：「南本」王。  
 204 由是大醫王：「北本」・「南本」是故佛世尊。  
 205 捨離：「南本」遺捨。  
 206 主：「北本注」【宮】王。  
 207 餓：「北本注」【元】明【宮】饑。「南本」饑。  
 208 蔭：「北本注」【宋】陰。  
 209 諸方所：「北本」・「南本」於諸方。



- 379 故況之。有人問之、汝受何事人謂善。答言、我今以開。<sup>229</sup>
- 380 受大憂苦以衆生有病、而菩薩亦病、若其得脫、則得安樂入大涅槃、是乃安樂。
- 381 衆生極盡、名爲得脫。世尊亦爾、爲我等故、修諸苦行。我等今者、猶未得免生死苦惱、云何如來得受安樂既未得脫、如何涅槃。
- 382 世尊、譬如醫王善解方藥、偏以祕方教授其子、不教其餘外受學者。如來亦爾。獨以甚深、祕密之藏、偏教文殊、遺棄我等、不見憐愍。如來於法、應無慳慳、如彼醫王偏教其子、不教外來諸受學者。彼醫所以、不能普教、情存勝負、故有祕惜。如來之心、終無勝負。何故如是、不見教誨。唯願久住、莫般涅槃憐佛有慈、而不平等。
- 389 世尊、譬如老少病苦之人、離於善徑、行於險路、路險澁難、多受苦惱。更有異人、見之憐愍、即便示以平坦好道。世尊、我亦如是。所謂少者、喻未增長法身之人。老者、譬重煩惱。病者、況未脫生死。險路者、喻二十五有。唯願如來、示導我等、甘露正道、久住於世、勿入涅槃實時、衆以佛滅爲實故、種種勸請。
- 396 爾時、世尊告諸比丘、汝等比丘、莫如凡夫、諸

229 何：「北本注」【宮】同。

230 言：「北本」·「南本」曰、「北本注」·「南本注」【二】曰  
|| 言。

231 憐：「北本」·「南本」願。

232 愍：「南本注」【三】憫\*。

233 慳慳：「北本」慳慳、「南本」祕惜。

234 普：「南本注」【宋】苦。

235 唯：「南本注」【三】惟\*。

236 離於善徑：「南本」捨遠夷塗。

237 行於險路：「北本注」【宮】險|| 險\*。「南本」而行險道。

238 路險澁難：「北本注」【宮】險|| 險\*。「南本」險道多難。

239 多受苦惱：「南本」備受衆苦。

240 見之憐愍：「南本」見而愍之、「南本注」【二】愍|| 憫

241 道：「南本」路。

242 謂：「南本」言。

243 老者：「南本」所言老者。「之人」と「老者」の間、「南本」【所言】有リ。

244 譬：「北本」·「南本」喻。「南本注」【二】喻|| 譬。

245 病者：「南本」所言病者。「煩惱」と「病者」の間、「南本」【所言】有リ。

246 者：「南本注」【三】者|| 苦。

247 況：「北本」喻。「南本」譬。

248 險路：「南本」所言險路。「生死」と「險路」の間、「南本」【所言】有リ。

249 路：「北本注」【宮】道。「南本」道。

250 者：「南本注」【三】者。欠。

251 唯：「南本注」【三】惟\*。

- 398 天人等、愁憂啼哭、當勤精進、繫心正念。時、諸  
 399 天人阿修羅等、聞佛所說、止不啼哭。猶如有  
 400 人喪其愛子、殯送已訖、抑止不啼。<sup>252</sup>爾時、世尊  
 401 爲諸大衆說是偈言  
 402 汝等當開意、不應大愁苦。諸佛法皆爾<sup>253</sup>感盡歸、  
 403 是故當默然。樂不放逸行<sup>254</sup>戒持、守心正憶  
 404 念<sup>255</sup>定也。遠離諸非法<sup>256</sup>勸修、自慰受歡樂。  
 405 復次、比丘若有疑惑、今皆當問。若空不空<sup>257</sup>謂空  
 406 是涅槃、不空、若常無常<sup>258</sup>涅槃是常、生、若苦非苦<sup>259</sup>煩  
 407 未盡爲苦、已、若依非依<sup>260</sup>如來藏者、是一切法之  
 408 去不去<sup>261</sup>邪行沈沒、名爲不去。若歸非歸<sup>262</sup>三寶是  
 409 不可、若恒非恒<sup>263</sup>法報二身、無變易故、是、若斷若  
 410 常<sup>264</sup>緣起是無爲、斷、若衆生非衆生<sup>265</sup>未見佛  
 411 衆生。已見性、若有若無<sup>266</sup>生滅爲有、不、若實不  
 412 實<sup>267</sup>二乘非實、若真不真<sup>268</sup>聖諦爲真、若減不  
 413 減<sup>269</sup>化身無減、若密不密<sup>270</sup>究竟說者、爲非密、若  
 414 二不二<sup>271</sup>眞諦不二、如是等種種法中、有所疑  
 415 者、今應諮問。我當隨順爲汝斷之、亦當爲汝  
 416 先說甘露、然後乃當入於涅槃<sup>272</sup>也。若有疑不問、

252 喪其愛子、殯送已訖、抑止不啼：「北本」殯喪子已、止不啼哭。「南本」喪其愛子、殯送已訖、抑止不哭。  
 253 自慰：「北本」慰意。  
 254 惑：「北本」念、「北本注」〔三〕〔宮〕念〓惑。  
 255 非：「北本」不。「北本注」〔三〕不〓非。  
 256 若常：「北本注」〔元〕〔明〕〔宮〕非斷。  
 257 密：「北本注」〔宮〕蜜。  
 258 順：「北本注」〔明〕順。

- 417 則佛在無益。若疑問。諸比丘、佛出世難、人身難  
決了、則知佛是常。
- 418 得、值佛生信、是事亦難。能忍難忍、是亦復難。
- 419 成就禁戒、具足無缺、得阿羅漢果、是事亦難。
- 420 如求金沙優曇鉢花喻前五。諸比丘、離於
- 421 八難、得人身難八難者、一、地獄。二、畜生。三、餓鬼。四、  
人中。五、世智。六、生佛
- 422 前後。七、生鬱單。汝等遇我、不應空過。我於往  
越。八、生長壽天。
- 423 昔種種苦行、今得如是無上方便。為汝等故
- 424 無量劫中、捨身手足頭目髓腦、是故汝等不
- 425 應放逸勸動。汝等比丘、云何莊嚴正法寶城、
- 426 具足種種功德珍寶。戒定智慧以為牆塹260、俾
- 427 261倪倪者、謂於孔中伺望非常之事。戒、況牆也、以防  
非故。定、譬塹也。取境深故。慧、喻倪倪。是見性故。
- 428 汝今遇是佛法寶城、不應取此虛偽之物2取
- 429 虛偽。為。譬如商主遇真寶城、取諸瓦礫、而便
- 430 還家。汝亦如是。值遇寶城、取虛偽物。汝諸比
- 431 丘、勿以下心而生知足任於小果。是下心也。。汝等今者、雖
- 432 得出家、於此大乘不生貪慕263初出家者、始學之
- 433 路極。汝諸比丘、身雖得服、袈裟染衣、其心猶
- 434 未得染大乘清淨之法。汝諸比丘、雖行乞食
- 435 經歷多處、初未曾乞268、大乘法食。汝諸比丘、雖

259 諸比丘：「北本」、「南本」汝諸比丘。「南本注」三  
〔汝〕欠。

260 以：「北本注」三〔宮〕〔以〕欠。

261 俾倪：「北本」埤埤、「北本注」〔宮〕埤埤。脾（月+

兒。「南本」〔埤埤〕欠。

262 取：「北本」及。

263 不：「北本注」〔宋〕未。

264 慕：「北本注」〔宋〕慕。

265 其心：「南本」心。

266 得染：「南本」染。

267 大乘清淨之法：「南本」大乘淨法。

268 乞：「南本」求。





- 455 是名解脫。三法、為衆生故、名人涅槃示滅身、圓備、即是涅槃。、如
- 456 世伊字以三點、喉三法。。
- 457 爾時、諸比丘聞佛、定當入般涅槃、皆悉憂愁捨離歸本、長與。
- 458 物隔、故生憂也。、身毛為豎、涕淚盈目、稽首佛
- 459 足、繞無量匝、白佛言、世尊、快說無常、苦、空、無
- 460 我無常故空、空故無我。。世尊、譬如一切衆生、迹中象迹
- 461 為上象喻於常迹、況無常放、尋象之迹、以得象體、尋無常用、以至於常。。是無常
- 462 想、亦復如是。於諸想中、最為第一謂能除二界欲愛慢也。。
- 463 若有精勤修習之者、能除一切欲界欲愛、色
- 464 無色愛、無明憍慢、及無常想想謂證。智也。。世尊
- 465 如來、若離無常想者、今則不應、入於涅槃此引
- 466 昔說以離今也。若世傳久離無。若不離者、云何常想者、何故今日方般涅槃。
- 467 說言修無常想、離三界愛、無明、憍慢、及無常
- 468 想此引今說以離昔也。若修無常想、不能離無常想者、則昔言能離是虛妄也。。世尊、譬
- 469 如農夫秋月之時、深耕其地、能除穢草此歎無常
- 470 之勝用。草穢。是無常想、亦復如是夫空解必因沉愛慢也。。有不可
- 471 得、空何以空。空有。能除一切欲界欲愛、色無色既除、二想俱滅。
- 472 愛、無明憍慢、及無常想。世尊、譬如耕田秋耕
- 473 為勝283。如諸迹中象迹為勝。於諸想中無常想284

276 佛：「北本」·「南本」佛世尊。

277 定當入般涅槃：「北本」·「南本」定當涅槃。

278 淚：「南本注」三。泗。

279 盈目：「南本」交流。

280 欲愛：「南本」貪愛。

281 秋月之時：「南本」於秋月時。

282 欲愛：「南本」貪愛。

283 勝：「南本」上。

284 想：「北本注」元【明】【宮】想欠。

- 474 爲勝勝義生。<sup>285</sup> 世尊、譬如帝王知命將終、恩赦<sup>286</sup>
- 475 天下獄囚繫閉、悉令得脫、然後捨命。如來今
- 476 者、亦應如是、度諸衆生、一切無知、無明繫閉、
- 477 皆令解脫、然後涅槃。<sup>287</sup> 我等今者、皆未得度、云
- 478 何如來、便欲捨入於涅槃。<sup>288</sup> 若衆生、入涅槃者、<sup>289</sup> 是無業愛
- 479 之心。云何見。世尊、譬如有人爲鬼所持、遇良呪
- 480 師、以呪力故、便得除差。如來亦爾、爲諸聲聞
- 481 除無明鬼、令得安住、摩訶般若、解脫等法、如
- 482 世伊字。世尊、譬如香象爲人所縛<sup>象喻</sup>、雖
- 483 有良師<sup>王也</sup>、不能禁制頓絕<sup>象喻</sup>羈鎖自恣而
- 484 去<sup>此喻菩薩、絕棄煩惱。久住於世。</sup> 我等未爾爲五十七煩
- 485 惱繫縛<sup>見惑有四十四諦各十故。欲愛有六、貪瞋、無</sup>
- 486 明住地、一合。云何如來、便欲捨、入於涅槃<sup>聲聞</sup>
- 487 五十七也。云何如來、便欲捨、入於涅槃<sup>聲聞</sup>
- 488 不同菩薩、能脫。世尊、如人病瘡<sup>業起不恒故、</sup> 值
- 489 遇良醫、所苦得除。我亦如是、多諸患苦、邪命
- 490 熱病。雖遇如來、病未除愈、未得無上、安隱常
- 491 樂。云何如來、便欲捨、入於涅槃。世尊、譬如
- 492 醉人、不自覺知<sup>酒況煩惱。人喻比丘。言其不能覺、</sup>
- 493 不識親疎、母女姊妹<sup>况不知。此譬不知真也。</sup>、迷荒姪亂<sup>喻起、</sup>

285 爲：「北本注」【宋】（爲）欠。

286 勝：「南本」最。

287 涅槃：「北本」乃入於般涅槃。

288 爲：「北本注」【宮】惡。

289 頓：「北本」頓「北本注」【二】【宮】頓。頓。頓。「南本」頓。

290 鎖：「北本注」【宋】瑣。

291 等未爾爲：「北本」：「南本」未如是脫。

- 493 言語放逸譬所發、臥糞穢中喻生。時有良師、
- 494 與藥令服良師譬佛、藥況教法、服已吐酒喻斷煩、還自
- 495 省識知真識、妄也。、心懷慚愧愧迷、深自剋責悔前
- 496 也。酒爲不善、諸惡根本煩惱爲衆、惡之源也。、若能除
- 497 斷、則遠衆罪煩惱若斷、衆惡咸滅。則。世尊、我亦如
- 498 是、往昔已來、輪輪生死、貪嗜五欲明昔、過也。、非
- 499 母母想、非姊姊想、非子女想、於非衆生衆
- 500 生想、是故輪轉受生死苦。如彼醉人、臥糞穢
- 501 中。如來、今當施我法藥、令我還吐煩惱惡酒、
- 502 含服已。而我未得醒寤之心煩惱未斷。云何如
- 503 來、便欲放捨、入於涅槃。世尊、譬如有人歎芭
- 504 蕉樹、以爲堅實、無有是處芭蕉不堅、猶身之無我。。世
- 505 尊、衆生亦爾。若歎我、人、衆生、壽命、養育、知
- 506 見、作者、受者、是真實者、亦無是處。我等如是
- 507 修無我想。世尊、譬如漿滓無所復用無我、用也。、是
- 508 身亦爾、無我無主。世尊、如七葉花、無有香氣
- 509 體也。是身亦爾、無我無主。我等如是、心常修
- 510 習、無我之想。如佛所說、一切諸法、無我我所
- 511 得。我尚不可得、我所何可得。所我兼忘、故無慢也。汝諸比丘、應當修習。如是

292 糞穢：「南本」不淨。

293 吐酒：「南本」即吐。

294 省：「北本」·「南本」憶。

295 已：「北本注」〔三〕已||以\*。

296 輪輪：「北本」·「南本」輪轉。輪轉の誤りか。

297 (生死)と(貪嗜)の間、「北本」·「南本」(情色所醉)有り。

298 貪嗜五欲：「北本」·「南本」情色所醉、貪嗜五欲。

299 糞穢：「南本」不淨。

300 醒：「北本注」〔宋〕惺。

301 寤：「北本注」〔三〕悟。

302 習：「北本注」〔宮〕集\*。

- 512 修已、則除我慢。離我慢已、便入涅槃昔教今教俱。世尊說、昔教既非、今何必是。故執昔之教、取決於今。世尊、譬如鳥迹、空中
- 513 現者、無有是處。有能修習無我想者、而有諸
- 514 見、亦無是處有我想者、則有見取。無。我故、無我想則無見。
- 515 爾時、世尊讚諸比丘、善哉善哉。汝等善能修
- 516 無我想別其所執、故稱歎之。時、諸比丘卽白佛言、世尊、
- 517 我等不但修無我想、亦更修習其餘諸想。所
- 518 謂苦想303·無常想304·無我想304。世尊、譬如人醉其心
- 519 冥眩306、見諸山河、石壁草木、宮殿屋舍、
- 520 日月星辰皆悉迴轉307、聲聞之人、謂菩薩於非常之中妄生常歎、猶如
- 521 醉人於非轉中而非轉想。世尊、若有不修苦·無常想·無我
- 522 等想、如是之人、不名爲聖、多諸放逸、流轉生
- 523 死不修無常·苦·空無我、則。流轉生死、非聖人也。世尊、以是因緣、我等
- 524 善修如是諸想以能離生死故。
- 525 爾時、佛告諸比丘、諦聽諦聽、汝向所引醉人
- 526 喻者、但知文字未達其義聲聞之人、觀空無常、以爲實諦、未知
- 527 眞我是佛、故云不達。何等爲義、如彼醉人見上日月、實
- 528 非迴轉、生迴轉想佛果是常、而計無常。猶如。醉人於非轉處、而生轉想。
- 529 衆生亦爾、爲諸煩惱無明所覆、生顛倒心311。我

303 想：「北本注」[宋]「想」欠。「南本」等想。「南本注」  
 「三」等無我。

304 無我想：「南本」〔無我想〕欠。

305 人醉其心：「南本」醉人其心。

306 冥眩：「北本」憊眩、「北本注」〔三〕憊〓眩。「南本」  
 眩亂。

307 見：「南本注」〔三〕視。

308 河：「南本」川。

309 石壁草木：「南本」城廓。

310 比丘：「北本注」〔三〕〔言〕比丘言。「南本」比丘言。

311 顛：「南本注」[宋]「元」傾\*。

- 531 計無我、常計無常、淨計不淨、樂計爲苦計執、不達。312 雖生此想、不達其義、如彼醉人、眞我等。
- 532 於非轉處、而生轉想。我者卽是佛義報佛是法、
- 533 佛妙用能生一切。常者、是法身義法身寂然、法、故言是佛義。
- 534 二身為所依、故云常也。一。樂者、是涅槃義法身離二身隨機、起滅不得、名常。
- 535 淨者、是法義法離非法、汝等生死、證得無餘、故云樂也。
- 536 比丘、云何而言、有我想者、憍慢貢高、流轉生死。汝等若言我、亦修習無常、苦、無我等想是
- 537 三種修無有實義汝之三修、是昔權教、以昔對今、非實義也。我今當
- 538 說勝三修法勝者、謂大。乘三修也。苦者計樂、樂者計苦、
- 539 是顛倒法。316無常計常、常計無常、是顛倒法。無
- 540 我計我、我計無我、是顛倒法。不淨計淨、淨計不淨、是顛倒法。有如是等四顛倒法。是人不
- 541 知正修諸法正謂常樂。我淨也。汝諸比丘、於苦法中
- 542 生於樂想、於無常中生於常想、於無我中生
- 543 於我想、於不淨中生於淨想夫倒必起對。若於樂中生苦
- 544 想等、必於苦中生樂想等。世間亦有常樂我淨謂非我計我等。出
- 545 世亦有常樂我淨謂眞常。眞樂等。世間法者、有字
- 546 無義謂苦中見樂等。。出世間者、有字有義謂知我見樂等。

312 〔爲苦〕と〔雖生〕の間、「北本」・「南本」〔以爲煩惱之所覆故〕有り。

313 習：「北本注」〔宮〕集\*。

314 苦：「北本注」〔元〕〔明〕〔宮〕苦想。「南本注」〔三〕苦空。

315 等：「北本注」〔元〕〔明〕〔宮〕〔等〕欠。

316 顯：「南本注」〔宋〕〔元〕顯Ⅱ俱\*。

317 顯：「南本注」〔宋〕〔元〕顯Ⅱ俱\*。

318 顯：「南本注」〔宋〕〔元〕顯Ⅱ俱\*。

319 顯：「南本注」〔宋〕〔元〕顯Ⅱ俱\*。

320 顯：「南本注」〔宋〕〔元〕顯Ⅱ俱\*。

321 生於：「南本」而生。

322 生於：「南本」而生。

323 生於：「南本」而生。

324 生於：「南本」而生。

550 等。何以故、世間之法有四顛倒、故不知義。所  
 551 以者何、有想倒·心倒·見倒分別是、名為想倒。緣於理、此為心倒。  
 552 是為見倒。以三倒故、世間之人、樂中見苦、常見  
 553 無常、我見無我、淨見不淨、是名顛倒謂佛地中、起四  
 554 也。以顛倒故、世間知字、而不知義。何等為義。  
 555 無我者、名為生死生死不自在、故知無我。。我者、  
 556 名為如來如來有八自在、故得名為我也。。無常者、聲聞緣  
 557 覺二乘有生滅、故無常。。常者、如來法身法身無生滅、故名常。。苦  
 558 者、一切外道因苦果。。樂者、即是涅槃體寧靜故。。  
 559 不淨者、即有為法謂一切有。。淨者、諸佛苦  
 560 薩所有正法謂一切無漏道法也。、是名不顛倒見正而無倒也。。  
 561 以不倒故、知字知義體言識旨、為知字義。。若欲遠離  
 562 四顛倒者、應知如是、常樂我淨能知四德、則無復四倒。。  
 563 時、諸比丘白佛言、世尊、如佛所說、離四倒者、  
 564 則得了知、常樂我淨。如來今者、永無四倒、則  
 565 已了知、常樂我淨。若已了知、常樂我淨、何故  
 566 不住、一劫半劫、教導我等、令離四倒、而見放  
 567 捨、欲入涅槃。如來、若見顧念教勅、我當至心、  
 568 頂受修習。如來若入於涅槃者、我等云何與

325 顛：「南本注」〔宋〕〔元〕顛。傾\*。  
 326 想倒：「北本」·「南本」想顛倒。「南本注」〔宋〕〔元〕  
 顛。傾\*。  
 327 顛：「南本注」〔宋〕〔元〕顛。傾\*。  
 328 顛：「南本注」〔宋〕〔元〕顛。傾\*。  
 329 名為：「南本」即。  
 330 名為：「南本」即。  
 331 顛：「南本注」〔宋〕〔元〕顛。傾\*。  
 332 顛：「南本注」〔宋〕〔元〕顛。傾。明。顛倒。  
 333 顛：「南本注」〔宋〕〔元〕顛。傾\*。  
 334 令：「北本注」〔宮〕今。  
 335 入於：「南本」當人。  
 336 等：「南本」當。「南本注」〔二〕等。

- 569 是毒身、同共止住、修於梵行。我等亦當隨佛<sup>337</sup>
- 570 入於涅槃若不住世、則隨入涅槃。勸住誦深、致以死請。
- 571 爾時、佛告諸比丘、汝等不應作如是語。我今
- 572 所有無上正法、悉以付屬摩訶迦葉獨付迦葉
- 573 猶如如來、為諸衆生、作依止處。摩訶迦葉亦者、以彼亦有一。時匡化能故。是迦葉者、當為汝等、作大依止。
- 574 復如是、當為汝等、作依止處。譬如大王多所
- 575 統領、若遊巡時、悉以國事付屬大臣、如來亦
- 576 爾。所有正法、亦以付屬摩訶迦葉。汝等當知、
- 577 先所修習、無常苦想、非是真實勸知前權、而後實也。。譬
- 578 如春時喻起行時也。、有諸人等譬聞衆也。在大池浴
- 579 洗塵。乘船遊戲依權教也。、失琉璃寶常理可珍故、況之以寶。
- 580 沒深水中隱於無常之教、故云沒水。。是時諸人求權教也。悉
- 581 共入水俱觀無常也。、求覓是寶求常旨也。、競捉瓦石、
- 582 草木沙礫、各自自謂、得琉璃珠以妄計為、真實也。、
- 583 歡喜持出、乃知非真雖鹿重纏、名為持出。猶拘相染、是日非真。。是
- 584 時寶珠猶在水中言真常之旨、隱昔教中。、以珠力故、
- 585 水皆澄清珠力況常性也。澄。清謂聞經生信。。於是大衆謂大乘人
- 586 也。乃見寶珠故在水下依教聞見、未得親證、故云在下。、猶如

337 佛：「北本」・「南本」佛世尊。

338 屬：「北本」・「南本」囑。

339 屬：「北本」・「南本」囑。

340 屬：「北本」・「南本」囑。



- 588 仰觀虛空月形眞理圓明。喻如空月。。是時衆中有一  
 589 智人謂依教起行之人也。、以方便力安徐入水於無常中、諦觀常理。、  
 590 卽使得珠證常。。汝等比丘、不應如是修習  
 591 無常·苦·無我想·不淨想等、以爲實義。如彼  
 592 諸人、各以瓦石草木沙礫、而爲寶珠。汝等應  
 593 當、善學方便、在在處處勤修我想常樂淨  
 594 想。復應當知、先所修習四法相貌、悉是顛倒。  
 595 欲得眞實、修諸想者、如彼智人巧出寶珠、所  
 596 謂我想常樂淨想。  
 597 爾時、諸比丘白佛言、世尊、如佛先說、諸法無  
 598 我、汝當修學。修學是已、則離我想。離我想  
 599 者、則離憍慢。離憍慢者、得入涅槃。是義云何  
 600 若有我爲眞、無我非實。世尊昔時、何故。佛告諸  
 601 比丘、善哉善哉。汝今善能諮問是義、爲自斷  
 602 疑無我之理、於邪爲樂、於眞爲病。故須昔讀而今毀也。。譬如、國王闇鈍少  
 603 智王喻比。、有一醫師、性復頑嚚醫況說邪教者也。心不測。  
 604 正法爲頑、口不談中道爲歸。、而王不別正也。、厚賜俸祿加  
 605 養、療治衆病、純以乳藥乳況邪。。亦復不知、  
 606 病起根源。雖知乳藥、復不善解不知我有眞僞也。。

341 勤：「北本」；「南本」常。  
 342 顛：「南本注」【宋】「元」顛。俱\*。  
 343 嚚：「北本注」【宋】嚚。同。  
 344 源：「北本」；「南本」原。「南本注」【元】【明】原。源。

- 607 或有風病冷病熱病風喻瞋、冷況、一切諸病<sup>345</sup>  
喻八萬四千悉教服乳純說邪。我也。  
608 是王不別、是醫  
609 知乳、好醜善惡邪我增諸煩惱。正我能滅無明。。復有明醫  
610 善療衆病知衆生之根性也。、曉八種術、處、識病。二、知病因。三、知病相。四、知病時。五、知病時。六、知藥。七、知藥。八、知藥。  
611 遠方來遠方謂淨土也。。是時舊醫不知諮受、反生  
612 貢高輕慢之心邪見熾然、謂佛劣已。。彼時明醫即便  
613 依附請以爲師況設權道也。如以鬻頭、藍弗、爲師之類是也。、諮受  
614 醫方祕奧之法、語舊醫言、我今請仁以爲師  
615 範、唯願爲我宣暢解說將欲化之、故先誘之。。舊醫答  
616 言、卿今若能爲我給使四十八年外道多修六行、八禪<sup>348</sup>  
617 八四各有六行、六、八、四、十有八也。、然後乃當教汝醫法。時彼明<sup>349</sup>  
618 醫、即受其教。我當如是隨我所能、供給走使。時彼明<sup>350</sup>  
619 於是舊醫、即將客醫、共入見王因邪以通正也。。是時<sup>353</sup>  
620 客醫、即爲王說種種醫方謂十善、五戒等。、及餘技<sup>354</sup>  
621 藝謂神通解脫等。。大王當知、應善分別。此法如是、可  
622 以治國。此法如是、可以療病以定除亂、謂之治國。以慧去結  
623 名爲。爾時、國王聞是語已謂開正教也。、方知舊醫、  
624 癡駘無智癡喻邪見。駘、音五駘反。、即便驅逐、令出國界<sup>355</sup>

345 或有風病冷病熱病：「南本」風冷熱病。  
346 病：「南本注」〔三〕病。患。  
347 唯：「南本注」〔三〕惟\*。  
348 爲我：「北本注」〔宮〕爲我の二字は割注。  
349 時：「北本注」〔宮〕時。欠。  
350 明：「北本注」〔宮〕明能。  
351 我當如是：「北本」・「南本」我當如是、我當如是。  
352 供給：「北本」・「南本」當給。  
353 於是：「北本」・「南本」是時。  
354 技：「北本」・「南本」伎。「南本注」〔二〕伎。技。  
355 駘：「南本」闇。

- 626 也。然後倍復恭敬客醫歸正。是時客醫、  
 627 作是念言、欲教王者、今正是時。即語王言、大  
 628 王於我、實愛念者、當求一願空理無二。王即  
 629 答言、從此右臂右以便爲輸、沈初學也、及餘身分譬常、  
 630 也。隨意所求、一切相與無所執也。彼客醫言王、  
 631 雖許我一切身分、然我不敢多有所求根未、  
 632 不敢。今所求者、願王宣令一切國內、從今已  
 633 往、不得更服舊醫乳藥勸捨邪我也。所以者何、  
 634 是藥毒害、多傷損故邪我執著。若欲服者、  
 635 當斬其首邪我爲衆倒之源故、況之以首也。今。斷  
 636 乳藥已終、更無有橫死之人若禁邪我、則慧命得全、爲不橫也、  
 637 常受安樂故求是願樂謂涅槃。時王答言、  
 638 汝之所求蓋不足言所教易。信也。尋爲宣令沈轉、  
 639 一切國內有病之人、皆悉不聽、以乳爲藥  
 640 禁邪。若爲藥者、當斬其首終以無我、斷。爾我也。  
 641 時、客醫以種種味和合衆藥彼彼我也、謂辛苦鹹甜醋362  
 642 等味以療衆病喻佛於小教中、說種種之法、化衆生也、無不得  
 643 差執病悉。其後不久、王復得病況諸比丘、因學無我、遂於  
 644 佛地起、即命是醫、我今病重困苦欲死執見無我倒。

『注大般涅槃經』卷二翻刻（青木）

356 更：「北本」、「南本」復。  
 357 欲：「北本」、「南本」故。「北本注」〔三〕「宮」故。欲。  
 358 更無：「南本」無復。  
 359 受：「北本」、「南本」處。  
 360 有病之人：「南本」凡諸病人。  
 361 客醫以種種味和合衆藥：「南本」和合衆藥。  
 362 醋：「北本」、「南本」醋。「北本注」〔三〕「宮」醋。醋。醉。  
 363 下同。  
 363 我今病重困苦欲死：「南本」我今病困。

- 645 爲病重、迷眞、當云何治無我之執、未返爲欲死。醫占王病
- 646 應用乳藥無我之病、非我不除。尋曰王言、如王所患、應
- 647 當服乳說今。我於先時所斷乳藥、是大妄語前爲善邪故斷。今緣破執故、須。
- 648 語364此爲方便之門、非是眞實語也。今若服者、最能除病讀今。王今患熱、正應服乳執說無我、爲服乳。
- 649 我能除、時王語醫、汝今狂耶、爲熱病乎昔非
- 650 豈不、而言服乳、能除此病。汝先言毒、今云何語涉相誣故、云欺我。服、欲欺我耶前說有毒、復言良妙。先醫所讚、
- 651 汝言是毒、令我驅遣。今復言好、最能除病。如
- 652 汝所言、我本舊醫、定爲勝汝先毀後讚、非勝如何。是
- 653 時客醫、復裕王言、王今不應作如是語。如虫
- 654 食木、有成字者木況有漏、虫喻外道、一切諸病、悉以乳療、不識病由、偶然有中、故云。
- 655 成字、此虫不知、是字非字外道說我、不知我所對除。如虫食木不知
- 656 非字。智人見之、終不唱言、是虫解字、亦不驚是字。
- 657 怪食木之虫、偶然成字。不知是字、外道說我。大王、
- 658 偶言是我、不知我義、是故智人、不驚不怪。
- 659 當知舊醫亦爾。不別諸病悉與乳藥、如彼虫
- 660 道偶成於字。367如是舊醫、不解乳藥、好醜善惡
- 661 合不知。時王問言、云何不解。客醫答言、369是乳
- 662 藥者、亦是毒害喻外道所說之我。說我。亦是甘露眞我也。

364 大妄語：「南本」非實語。  
365 語：啓「北本」、「南本」語。  
366 今：「南本注」【明】令。  
367 成於：「南本」得成。  
368 如是：「北本」、「南本」是先  
369 言：「北本」、「南本」王。

- 664 云何是乳、復名甘露。若是特牛370牛牛況彌經。善薩謂能生大
- 665 慧之子也。不食酒糟精能生狂、醫癩起業。滑草草滑順情。麥噉食悅意。
- 666 越越逆違情、其犢調善此喻智慧、柔和也。放牧之處
- 667 諸觀、不在高原沉不住。亦不下濕世間也。飲
- 668 以清流371、不令馳走沉不失戒定也。不與特牛、同
- 669 共一群遠思知。飲餉調適372、行住得所識也。失時。心意
- 670 歷境、名行定。如是乳者、能除諸病、是則名為
- 671 甘露妙藥此喻真我之解、能除生死重苦。除是乳已、其餘一
- 672 切、皆名毒害謂與聖道相違者。爾時、大王聞是語
- 673 已讚言、大醫、善哉善哉。我從今日、始知乳藥、
- 674 善惡好醜。即便服之、病得除愈依教修行、所執除也。
- 675 尋時、宣令一切國內、從今已往、當服乳藥
- 676 轉化衆。國人聞之、皆生瞋恨。咸相謂言、大王
- 677 今者爲鬼所持、爲狂癡耶373鬼鬼況無明、狂驗四倒。而誑
- 678 我等、復令服乳。一切人民、皆懷瞋恨、悉集王
- 679 所。王言、汝等不應於我而生瞋恨。而此乳藥374、
- 680 服與不服、悉是醫教、非是我咎。爾時大王
- 681 及諸人民、踊躍歡喜、倍共恭敬、供養是醫信同
- 682 我教。一切病者、皆服乳藥、病悉除愈真我之教。

370 特：「南本」乳。  
 371 流：「南本」水。  
 372 飼：「北本」餵。「南本」食。  
 373 狂癡：「北本」狂顛。「南本」是狂。  
 374 而：「南本」如。

- 683 出生功德。若能信行。汝等比丘。當知如來。應供<sup>375</sup>  
煩惱永斷。故曰悉除。
- 684 正遍知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈  
夫。天人師。佛。世尊亦復如是。為大醫王出現  
於世。降伏一切外道邪醫。諸王衆中。唱如是<sup>376</sup>
- 687 言。我為醫王。欲伏外道。故唱是言。無我。無人。  
衆生。壽命。養育。知見。作者。受者。比丘當知。  
是諸外道。所言我者。如虫食木。偶成字耳。是  
故。如來於佛法中。唱言無我。為調衆生。故為<sup>378</sup>
- 690 知時。故說是無我。有因緣故。亦說有我昔<sup>379</sup>  
無我。今說有。是今時也。
- 692 如彼良醫。善知於乳。是藥非藥。  
我。是今時也。
- 693 非如凡夫。所計吾我不同外道。計我也。。凡夫愚  
人所計我者。或如拇指。或如芥子。或如微塵<sup>380</sup>
- 695 相也。如來說我。悉不如是。是故說言。諸法  
無我破我執也。。實非無我非無實常之我。。何者是<sup>381</sup>我。
- 696 若法是實是真。是常是主。是依性不變者。是  
名為我。如彼大醫。善解乳藥破有則言無。談實故說有。。如<sup>382</sup>
- 699 來亦爾。為衆生故。說諸法中真實有我。汝等  
四衆。應當如是修習是法。
- 700

375 應供：「北本・南本」應。「南本注」〔二〕應供。

376 王：「南本」四。「南本注」〔二〕四王。

377 命：「南本注」〔三〕命者。

378 言：「南本」如是。

379 說：「南本」如是。

380 或如拇指：「北本」或言大如拇指。「北本注」〔三〕或有  
說言大如拇指。「南本」或有說言大如拇指。

381 我：「北本注」〔元〕實。

382 不變者：「北本」不變易者。「北本注」〔宋〕〔易〕欠。

〔元〕〔明〕〔宮〕〔者〕欠。「南本」不變易。

383

注大般涅槃經卷第二：「北本」大般涅槃經卷第二。「南本」大般涅槃經卷第二。「南本注」明「大般涅槃經」欠。

## Summary

# A Diplomatic Edition of the *Zhu daban niepan jing* Scrolls II, with An Introductory Study

Aoki Chialin

The *Zhu daban niepan jing* 注大般涅槃經 is a commentary to the northern text of the *Mahāyāna Mahāparinirvāṇasūtra* 大般涅槃經 which was translated by Dharmakṣema 曇無讖 (385–433) in 421 during the Northern Liang dynasty 北涼 Beiliang. This commentary was written by Wei Shen 韋諗, the governor official of the Daojiang prefecture 導江県 of the Tang Dynasty. According to record of the *Tōiki dentō mokuroku* 東域伝灯目録, the commentary had 30 fascicles 卷, though only six of them remain today, i. e. scrolls II, VIII, X, XII, XIV, and XIX. Most of them are nationally designated Important Cultural Properties in Japan.

Little is known about Wei Shen. The title of governor of Daojiang prefecture offers a clue as to his identity. I suggest that Wei Shen lived in the early eighth century. *The Zhu daban niepan jing* was written during the era of Kaiyuan 開元 era (713–741), and transmitted to Japan during the Tenpyō 天平 era no later than 753.

In this article, I provide a diplomatic edition of the *Zhu daban niepan jing* fascicle II comparing both the northern and southern versions in the Taishō Tripiṭaka. Hopefully this work will also bring a contribution to the study of the *Mahāyāna Mahāparinirvāṇasūtra* 大般涅槃經.

*Part Time Lecturer,  
Musashino University  
Ph. D.,  
International College  
for Postgraduate Buddhist Studies*